獅子 半世紀ぶり家々回る

県大生「頭入れ」を復活

安芸市入河内 住民ら笑顔

【安芸】安芸市入河内の船岡神社でこのほど、秋の神祭が行われた。半世紀ぶりに、獅子が家々を回って邪気を払い、98歳の女性は「ちょうど具合が悪うて、獅子にかんでもらいたかった。ありがとう」と笑顔を見せていた。

かつて同神社では地域の青年らが獅子舞を奉納する際、つじで獅子舞を披露したり、家々を訪ねる「頭入れ」などをしたりしていた。だが、50年ほど前に人手不足で神祭での奉納は途絶え、頭入れも行われなくなったという。

地域の困りごと解決に取り組む、高知県立大学の田中きよむ教授のゼミ生が「文化は住民の誇り。獅子舞を復活させよう」と2015年から奉納。昨年、神祭後のおきゃくで地区の住民や出身者に「昔は獅子が家々を回りよった」と聞き、「神社の階段を上がれないお年寄りにも楽しんでもらおう」と復活させた。

1日、神社で獅子舞を奉納後、学生4人は7軒を訪問。若い頃、獅子舞のテガイコを務めていたという70代の地元出身者に「もっと（歯を）がつがつして」などと教わり、玄関の戸の前で頭を激しく左右に振ったり、住民が差し出した頭にガブリとかみついたりした。

80代の女性は「子どもの頃は獅子が家に来ると怖くて、トイレやお風呂まで逃げ込みよったねえ」と懐かしんでいた。

獅子舞の頭役を務めた中国からの留学生、趙奕翔さん(26)は、「かみついたときに、口の中から住民が楽しそうな表情をしてるのが見えた。獅子舞が来たことで、地域とのつながりを感じられたと思う」と話していた。

（加藤風花）



邪気払いに住民の頭をかむ獅子と学生たち（安芸市入河内）

2026年11月5日高知新聞掲載記事